

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

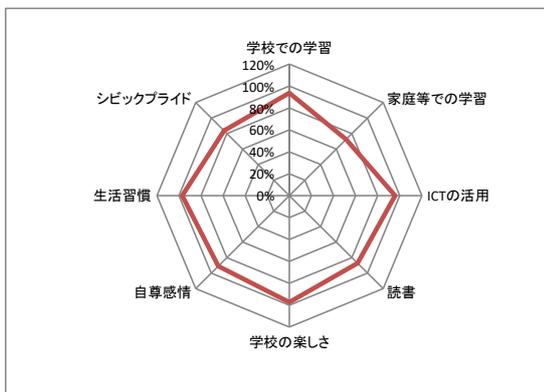
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章を読む力は全国平均とほぼ同程度であるが、記述式の問題を始めとする「書くこと」を問われる問題は全国平均を下回っている。聞く力、話す力の正答率の低さと合わせて自分の考えや回答を表現する力の育成が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文書と比較して要旨を捉える問題 目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題	
	努力が必要な問題	情報と情報との関係について問う問題 文章を整えることを問う問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」「関数」「図形」などの問題の正答率も全国平均とほぼ同程度である。資料として扱われるデータに関する問題の正答率が高くなっている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	データを活用した問題。特に四分位範囲の意味についての問題	
	努力が必要な問題	数と整式の計算問題 累積度数の意味を問う問題 反比例の意味を問う問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべての分野で正答率が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	社会的な話題について短い説明の要点を捉えることができる問題	
	努力が必要な問題	情報を正確に聞き取る問題を始めた全般的に「聞くこと」に関する問題 英作文を書く問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して80%強の生徒が肯定的に回答している。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己肯定感に影響を与えていることから、学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかって嬉しい」「授業がおもしろい」と思えるようにすることが重要である。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、家庭学習等でも活用するように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

タブレットを利用した学習時間を設け、補充学習に取り組んできている。本校の喫緊の課題である基礎学力の向上と過程学習の定着をタブレットの効果的な利用方法を模索しながら活用していく。授業では、思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善に取り組み、学びあい活動や話し合い活動等の積極的な活用を推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

生活習慣に関しては安定した水準を保っているものの家庭学習に関してはまだ定着していない。タブレットでの家庭学習を充実させ、その方法や状況をアンケート等で家庭から情報を得ながら学校通信やHPの掲載で啓発していく。また、国語の漢字や数学の計算スキル等を小学校とタイアップしながら基礎学力の向上を図っていく。